

2018年3月期 第1四半期
決算補足説明資料

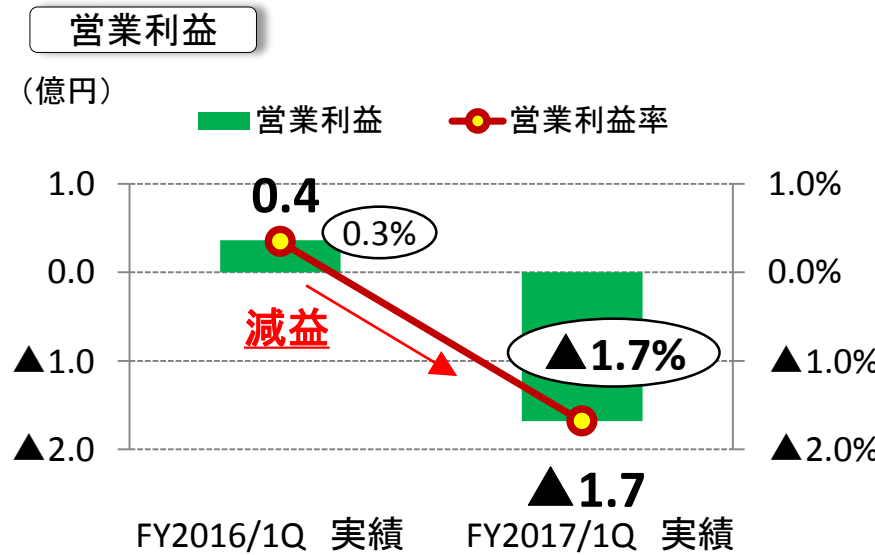
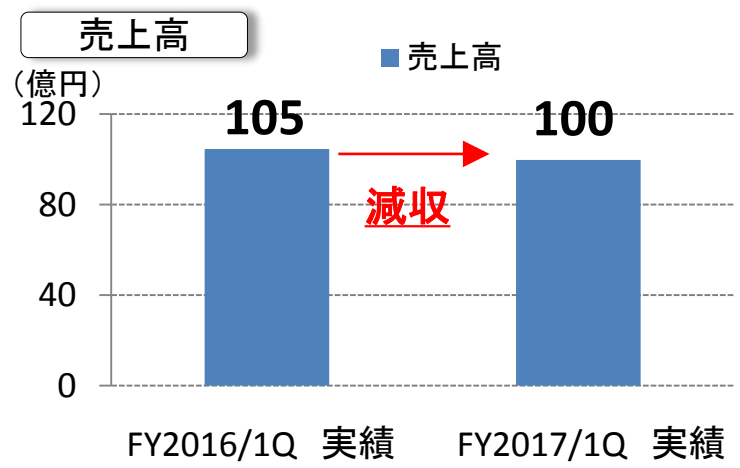


I 2018年3月期 第1四半期決算の概要

(1)2018年3月期 第1四半期 連結業績 概況

欧州地域における事業は全般的に好調に推移しましたが、国内オートモーティブ事業において、主要顧客の開発投資が延期となりました。また、ドイツのエンジニアリング事業において、顧客の開発戦略が見直される等、マーケット環境が厳しさを増しており、前年同期比で減収減益となりました。

金額単位: 億円	16Q1 実績	17Q1 実績	増減 (増減率)
売上高	105	100	▲5 (▲4.5%)
営業利益 (営業利益率)	0.4 (0.3%)	▲1.7 (-1.7%)	▲2.1 —
経常利益	▲2.9	▲3.4	▲0.5
税引前四半期純利益	▲2.9	▲3.9	▲1.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲4.2	▲4.6	▲0.4
連結子会社数	20社	20社	+0社

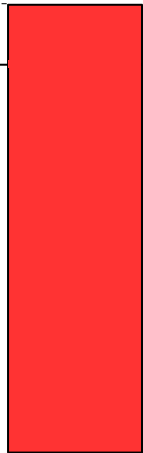


(2) 営業利益増減内訳

(単位: 億円)

△2.0億円 減益

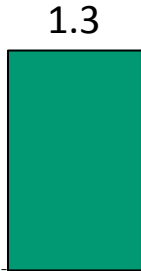
0.4
(0.3%)



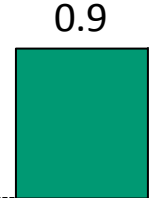
▲2.7



▲1.5



1.3



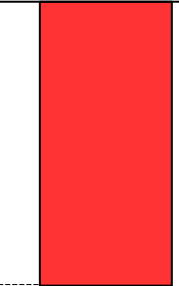
0.9



0.4



▲0.5



▲1.7
(▲1.7%)

16/1Q 実績

ドイツ
エンジニアリング事業
顧客の
開発戦略見直し

日本オートモーティブ
主要顧客の
開発投資延期

欧州子会社
の増益

日本コンシューマー
分野の増収

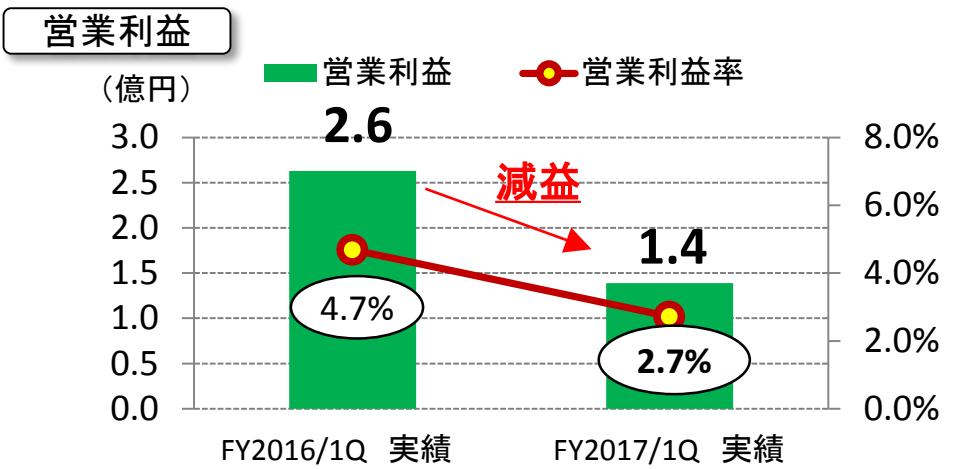
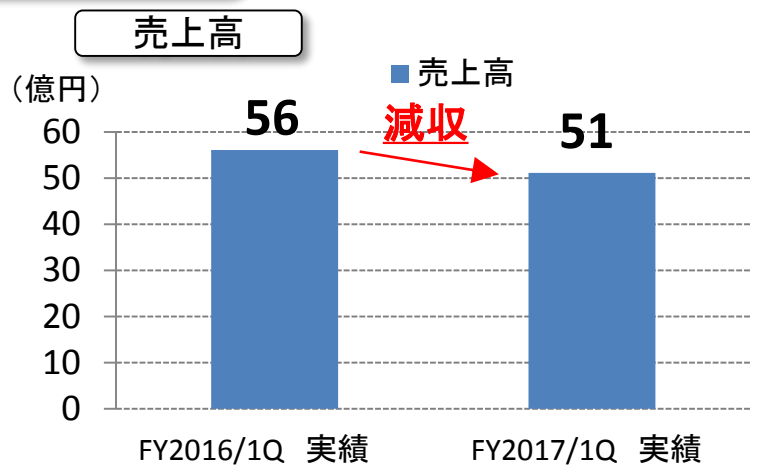
アジア開発
支援事業の
増収

その他

17/1Q 実績

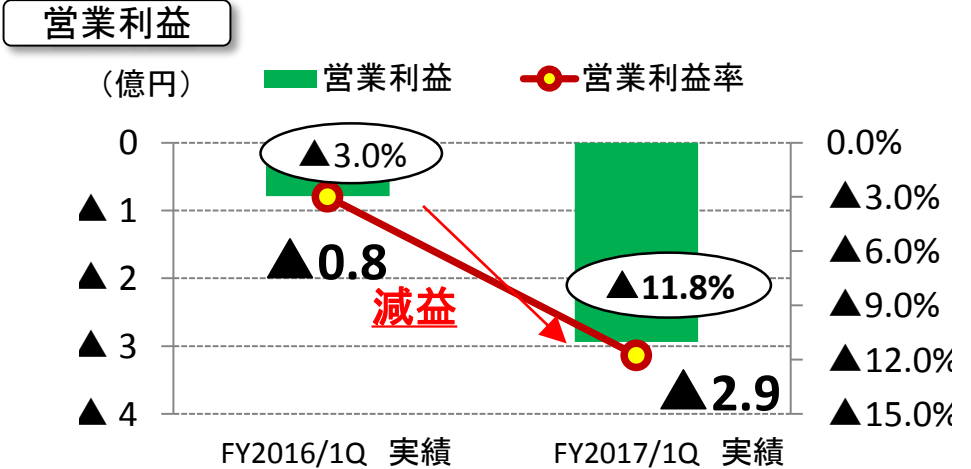
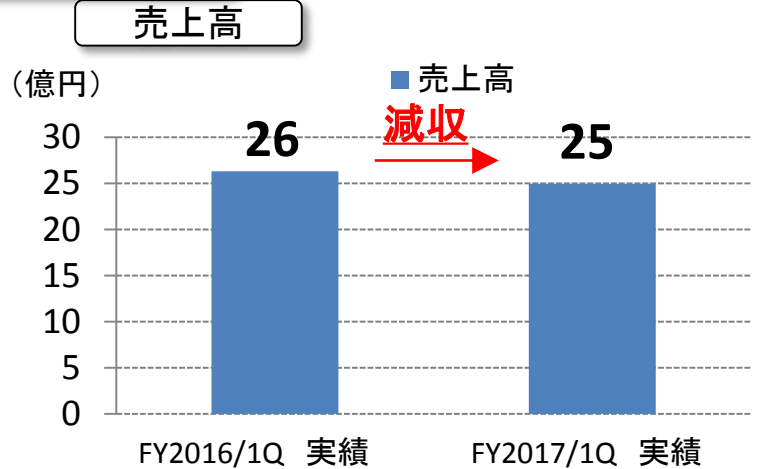
**オートモーティブ
事業**

減収減益 ⇒ 欧州・中国の試作事業が堅調、タイに復調の兆しがあるものの、日本国内主要顧客の新規開発遅れにより減収減益



**エンジニアリング
事業**

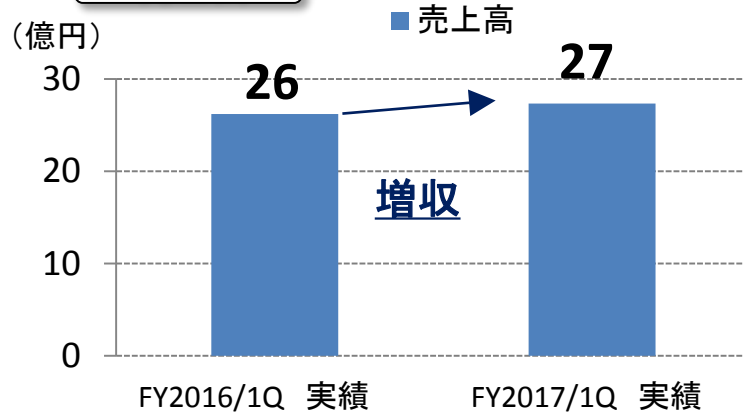
減収減益 ⇒ ドイツ派遣法改正に対応した派遣型から請負型ビジネスへの事業構造改革の遅れと顧客の開発戦略見直しにより減収減益



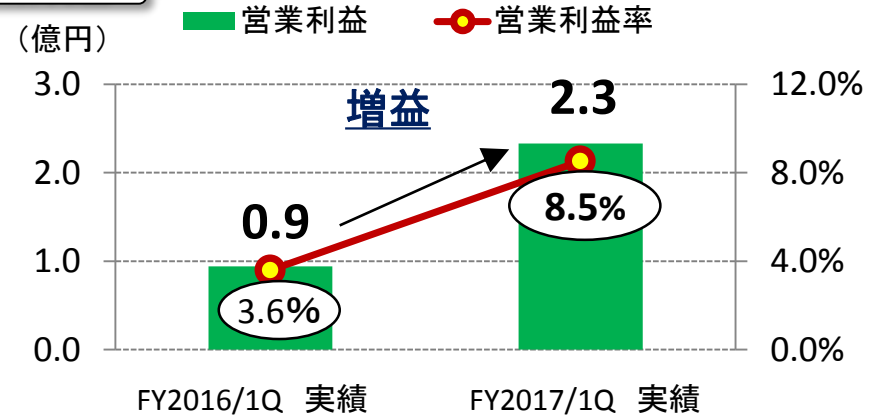
コンシューマー
事業

増収増益 ⇒ 日本の民生機器分野の復調、欧州・台湾の試作事業堅調により
増収増益

売上高



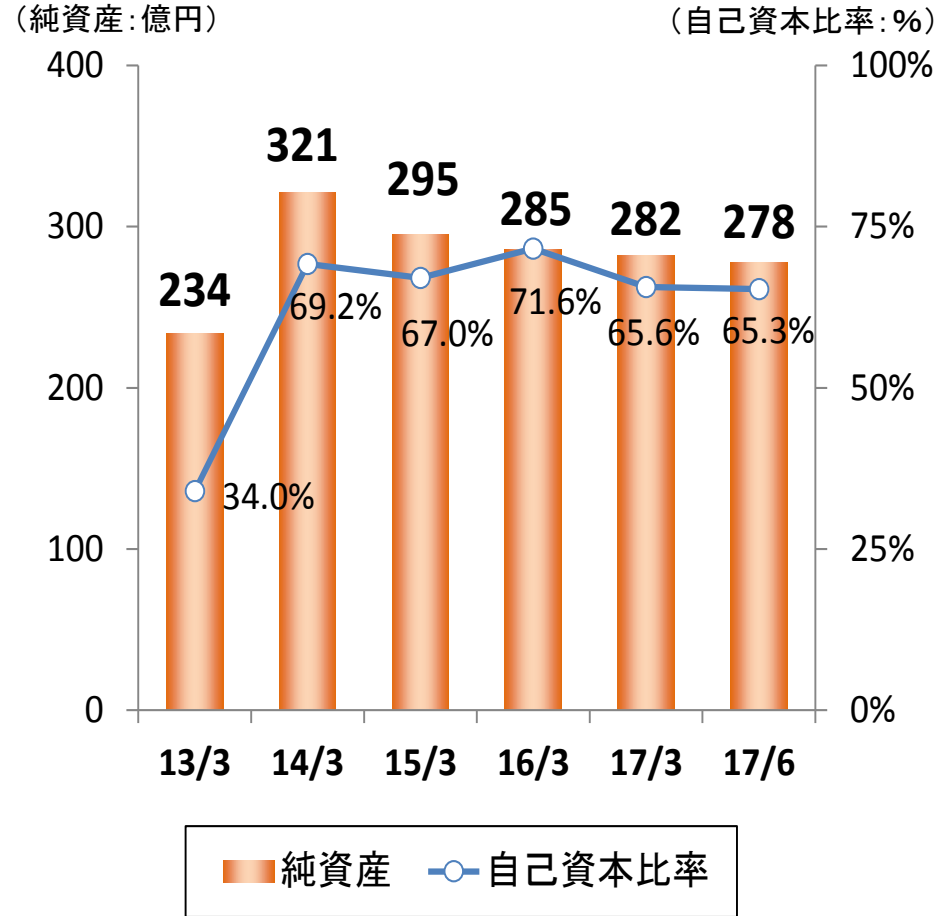
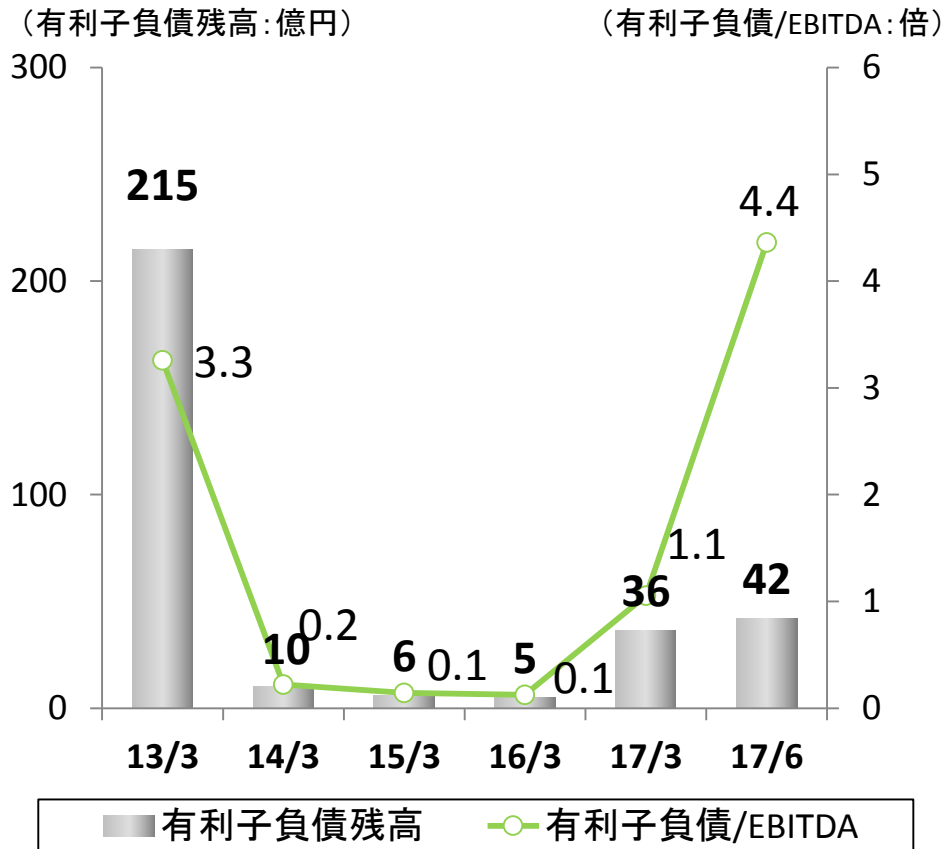
営業利益



有利子負債は42億円と増加するも、自己資本率は65.3%と財務の健全性を維持

① 有利子負債の状況

② 純資産の状況



※1 有利子負債＝銀行借入金＋社債＋リース未払金

※2 EBITDA＝営業利益＋減価償却費

ARRK

Passion to Grow and Develop Together